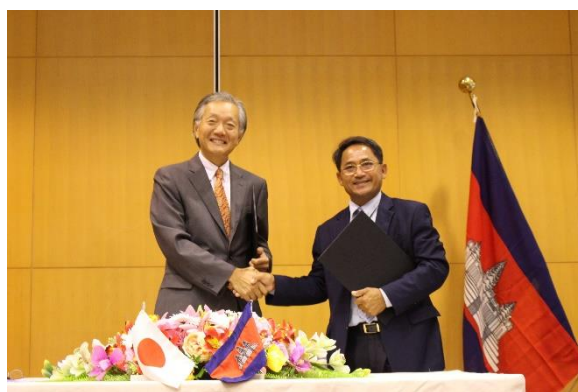


平成29年度草の根人間の安全保障無償資金協力 及び日本NGO連携無償資金協力署名式典

平成29年9月29日（金）、平成29年度草の根・人間の安全保障無償資金協力及び日本NGO連携無償資金協力に係る署名式典を当館多目的ホールにて執り行いました。同署名式では、堀之内秀久特命全権大使がモンドルキリ州農村開発局のヨン・サロム局長との間で「モンドルキリ州コツニエーク郡2地区橋梁建設計画」（供与限度額242,367米ドル）について、特定非営利活動法人環境修復保全機構（ERECON）の三原真智人理事長との間で「コンポンチャム州における貧困削減を目指した持続可能な農業生産基盤の普及事業」（供与限度額558,236米ドル）について、認定特定非営利活動法人日本地雷処理を支援する会の柴田幹雄現地事業統括責任者との間で「バンテアイミアンチェイ州における地雷・不発弾処理を伴う地域開発促進事業」（供与限度額761,202米ドル）の贈与契約書に署名を行いました。



モンドルキリ州農村開発局は、日本政府の実施する草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じて、モンドルキリ州コツニエーク郡の農村地域において、コンクリート橋を2本建設する予定です。現在同地では、雨期における渡河の手段が小さな渡し船に限られているため人の通行や物流に支障を来しており、また増水時の渡河には大きな危険を伴っています。本件の実施により、地域住民約6,000人の学校、病院、市場等へのアクセスが向上し、地域経済が活性化されることが期待されています。



ERECONは、日本政府の実施する日本NGO連携無償資金協力を通じて、カンボジア随一の野菜生産地であるコンポンチャム州において、州農林水産局および

大学教育機関と連携し、化学肥料や農薬を適正に使用し、自然資源を活用する環境に配慮した農法の普及および減化学肥料・減農薬農産物の流通販売のための基盤構築を行う予定です。持続的な営農が確立され、農産物の生産性と品質が向上することで、農家の貧困が削減され、人々が求める安全・安心な農産物が市場に供給されることが期待されています。



JMASは、日本政府の実施する日本NGO連携無償資金協力を通じて、バンテアイミアンチェイ州の高密度な灌木中に対戦車地雷が残存する除去難易度が高い地域において、CMACによる高度な地雷除去モデルの構築を支援する予定です。CMACが、未だに多く残るこのような地域における地雷除去を自ら進め、これから



発展が見込まれる地域において、地雷被害の防止や地域の社会経済開発が促進されることを期待しています。また、JMASの支援の下でCMACが実施する危険回避教育を通じて、地域住民が地雷や不発弾の危険性について正しい知識を身に付け、悲惨な事故が未然に回避されることが期待されています。

式典では、堀之内大使がスピーチを行い、今回の支援が対象地域の住民に直接裨益し、カンボジアと日本の更なる友好促進につながることを願うと述べました。続いてモンドルキリ州農村開発局のヨン・サロム局長、ERECONの三原理事長及びJMASの柴田代表が、日本国民及び政府への感謝の意を表明するとともに、着実に事業を推進していくことを約束しました。